



TITLE:

イギリス革命年表

AUTHOR(S):

武, 暢夫; コスミンキー, E. A.

CITATION:

武, 暢夫 ...[et al]. イギリス革命年表. 経済論叢 1955, 76(3): 1-20

ISSUE DATE:

1955-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/132437>

RIGHT:

經濟論叢

第七十六卷 第三號

日本國有鐵道における貨物等級指數……………佐 波 宣 平…(1)

マルクス＝エンゲルスの

ブルジョア革命理論(2)……………堀 江 英 一…(18)

保守的反獨占理論に對する小論……………吉 澤 榮 藏…(33)

イギリス革命年表 (翻譯) ……………A. E. コスミンスキー編…(1)
武 暢 夫譯

[昭和三十年九月]

京 都 大 學 經 濟 學 會

イギリス革命年表

E. A. コスミンスキー編

武 暢 夫 譯

- 年
- 1554 ロシア會社(Muscovy Company)の設立.
 - 1568 ロンドン取引所の設立.
 - 1569 ロシア會社, ロシア國家との貿易の特権を与える.
 - 1570 イワン四世, ロシア會社の特権を廢止.
 - 1579 東方會社(Eastland Company)うまれる. バルチック海沿岸諸國との貿易のため.
 - 1581 レヴァント會社うまれる.
 - 1586 ロシア會社, ふたたび, ロシア國家との貿易の特権を与える.
 - 1587—1604 イギリス・スペイン戦争.
 - 1587 フランシス・ドレイク, カディスを攻撃.
 - 1588 「無敵艦隊」の撃破.
 - ギニー會社の設立(奴隷貿易のために).
 - 1598 イギリスとネーデルランド諸州連合, スペインに對する相互防衛條約を締結.
 - イギリスにおけるハンザ同盟の全特権を廢止.
 - 1600 イギリス東インド會社の設立.
 - 「沼澤地方排水に關する條例」の發布.
 - 1602 オランダ東インド會社の設立.
 - 1603—1625 ステュアート朝ジェームズ一世の治世.
 - 1603 6月 スペインの商船と商品をその所有者に返還するとのジェームズ一世の
 - 7月30日 イギリス・フランス防衛同盟の締結. [布告.]
 - 1604 1月 國王, 監督制度辯護の問題に關し, ハンプトン宮で僧侶と協議(The Hampton Court Conference).
 - 3月 ジェームズ一世の第一次議會の召集 (この議會は1611年2月まで中絶)
 - 5月20日 イギリス・スペイン平和交渉はじまる. [した.]
 - 8月18日 イギリスとスペイン, 平和および同盟條約を締結.
 - 1605 「火藥陰謀事件」(Gun Powder Plot) ——議會混亂の目的でイギリスのカトリック教徒が組織(國王の出席下に, 議會の議員の會合の時).

1605 3月6日 議會、新來の貧民をロンドン近郊から追放する條例を採擇。

1606 2月24日 イギリスとフランス、通商の安全と自由に関する條約を締結
(1606年5月26日に批准)。

》4月 北米東岸に植民地をつくる權利をみとめた特許狀を、二つのヴァージニア會社(ロンドンおよびブリタニア)へ交付。

1607 ラシャ製造規則をさだめた法令の發布。

》第一次移民、ヴァージニアのジェームズ河口(後のジェームズ・タウンの場所にある)に上陸。

》3月31日 スペインとネーデルランド諸州連合の休戦締結。

》春一夏 ロンドンにおける徒弟の運動。

》5月一7月 イングランドのミッドランド地方における農民蜂起。

1608 フーゴ・グロティウスの論文『海洋の自由』(Mare Liberum)アムステルダムで發表。

》1月15日 ネーデルランド諸州連合、スペインとの休戦に關し、フランスの保證をえる。

》6月26日 ネーデルランド諸州連合、スペインとの休戦に關し、イギリスの保證をえる。

1609 北米の植民地=ニュー・アムステルダムの創設(オランダ商人とキャプテン・ヘンリ・ハドスンとにより)。

》3月30日 スペインとネーデルランド諸州連合の講和締結。

スペイン、ネーデルランド諸州連合の獨立を認む。

》5月16日 ブリテン、アイルランドおよびその隣接諸島をめぐる海域において、外國人の漁業を制限する國王の布告をイギリスで發表。

1610 8月29日 イギリスとフランス、永世の友好および防衛同盟を締結。

1611 信用取引機關設立の計畫。

1612 パーミューダ諸島(ソマズ諸島)植民のため、120人の「冒險的企業家」の會社設立される。

》ロシア國家にたいするイギリスの干涉計畫——冒險家キャプテン・チェムバリンによって組織されたものと推定される。

》3月28日 イギリスとドイツ新教諸國、防衛條約を締結。

1613 ロシア會社、ジェームズ一世から、スピッツベルゲンおよびグリーンランドにおける捕鯨業の獨占をえる。

》2月14日 ジェームズ一世の王女エリザベス、フェルツ選挙公フリードリッヒ五世と結婚。

- 1613春 スペイン大使ディエゴ・サルミエント(ホンドララ伯)イギリスに到着。
- 》 5月 デョン・メイリックを長とするイギリス使節團、ロシアへ出發。
 - 》 8月2日 イギリス使節團ロシアを去る。
- 1614 4月 デニムズ一世の第二次議會の召集(1614年6月に解散)。
- 》 舊「マーチャント・アドヴェンチャラズ組合」の特權の廢止。新「マーチャント・アドヴェンチャラズ組合」の組織。
 - 》 5月 ウィルトシャーにおける織匠の暴動。
 - 》 11月2日 ブランデンブルク邊疆伯、フェルツ伯、サクソニア公、(イギリス國王の調停により)クレーフェ公國およびユリフ公國を分割する條約を締結。
- 1615 未染色および未仕上げのロシアをイギリスから輸出することを禁止。
- 1616 イースト・アングリアにおける「排水者」と貧農層の紛争。
- 1617 デニムズ・カニングム、スコットランド東インド會社の組織をみとめた國王の免許狀をえる。
- 》 ロシア政府、ロシア會社の特權をみとめる。
 - 》 2月27日 ロシア國家とスウェーデンのストルボフ講和締結。
 - 》 8月 大使C・H・ヴォリンスキーとM・H・ボズデューエフ、イギリスへ出發。
- 1618—1648 三十年戦争。
- 1618 12月1日 ロシア國家とポーランド、デブリンで休戦締結。
- 1619 フェルツのフリードリッヒ五世ボヘミア王にえらばれる。
- 》 キャプテン・ロジャー・ノートン、アマゾン會社の組織につき、樞密院の同意をえる。 「締結。」
 - 》 6月2日 イギリス東インド會社とオランダ東インド會社、相互援助條約を
 - 》 新任ロシア大使イギリスへ到着。H・C・ボージーエフとV・ヴラーシェフ。
- 1620 イギリス移民巡禮派(Pilgrims)の代表ジョン・ピアス、北米における植民權をみとめた政府の特許狀をえる。(ニュー・イングランド特許狀)。
- 》 11月11日 イギリス移民巡禮派(Pilgrims)、移民自らその移住地の法律や制度を定める權利をもつとの協約を作成(メイフラワ號上で調印された)。
- 1621 1月 デニムズ一世の第三次議會の召集(1622年1月に解散)。
- 》 ロシア、ジョン・メイリック大使を通じて、同盟條約案をイギリス政府に交付。
 - 》 ウィリアム・アレクサンダー、「ノヴァ・スコティア」領土の所有權をみとめた國王の特許狀をえる。
 - 》 ネーデルランド諸州聯合とスペインの戦争再開。
 - 》 オランダ西インド會社の設立。

1621 2月 下院、イギリス商工業の不振に關して、討論を行う。

》 3月8日 議會、イギリスへ穀物を輸入することを禁止する法案を審議。

》 11月26—27日 議會、イギリスの外交政策の問題に關して、討論を行う。

》 12月3日 政府の對スペイン親交政策に反對する下院の請願。

1622—1634 イギリス植民者とアルゴンキン族インディアンとの戦争 (1634年の平和條約により、インディアンは、その領地を追放され、奥地へおいはらわれた)。

1622 2月9日 樞密院、ロシア工業の不振と織匠の窮狀に關して、諸州の治安判事の注意をうながす。

1623 1601年2月24日のイギリス・フランス通商條約の效力を延長する協定の調印。

》 アンボイナ島で、オランダ人、イギリス商人を殺害。

》 イギリス大使クリストファ・クック、イギリス側の署名したロシア國家とイギリスの同盟條約をたずさへ、モスクワに到看。 「目的で、」

1623 3月—9月 皇太子チャールズのスペイン滞在——スペイン王女と結婚する。

1624(頃) バルバドス島植民の資金調達のために會社を組織。

》 ロンドン會社、セント・クリストファ島植民の資金を調達。

》 2月12日 デニムズ一世の第四次議會の召集(1625年3月まで續く)。

》 3月11日 議會、對スペイン戦争の問題に關し、討論を行う。議會の多数、戦争に賛成。

》 3月29日 スペインとの交渉決裂に關する國王の聲明。 「結、」

》 6月5日 イギリスとネーデルランド諸州聯合、防衛同盟を延長する協定を締結。

》 11月 皇太子チャールズ、フランスのルイ十三世の王女アンリエット・マリイと結婚。 「との婚約。」

1625 西インド植民のために、フランス會社、組織される。

1625—1649 チャールズ一世の治世。

1625 6月—8月 チャールズ一世の第一次議會。

》 イギリスとネーデルランド諸州聯合、スペインおよびその同盟者にたいする攻守同盟條約(15年の期限での)調印、批准。

1626 ロシア政府、あらたに、ロシア會社の特權を確認。

1626 2月—6月15日 チャールズ一世の第二次議會。 「の命令。」

》 12月3日 イギリス領海にあるすべてのフランス船と商品を沒收する樞密院令。

1627 フランスとスペイン、イギリスにたいする攻守同盟條約を締結。

》 バルバドス島をふくむ全カリブ諸島の「領有」權を與える國王の特許狀を、カーライル伯に交付。

- 1628 クロムウェル、ハンチンドンシャより議會に選出される。
》 イギリス・カナダ會社アカデীরフランス植民地を奪取。
- 1628—1633 ネヴィス、アンティグワ、モンストラト(カリブ海の小アンティル諸島)に、イギリスの植民地を創設。
- 1628 3月17日—1629 3月2日 チャールズ一世の第三次議會。 「交付」
- 1628 4月 全カリブ諸島の「領有」權を保證する國王の特許狀を、カーライル伯に
》 6月7日 議會、「權利請願」(A Petition of Right)を國王に提出。
》 7月17日 國王、權利請願をひとめる。
》 8月23日 バキングラム公、フェルトンに暗殺される。
》 10月 ラ・ロシエルの降服。
- 1629 マサチューセッツ會社、國王の特許狀をえる。
》 ジョン・エリオットの投獄(1633年獄死)。
- 1629 3月9日—1640 4月13日 チャールズ一世の無議會政治。
- 1629春 議會における反對派の指導者11人、逮捕される。
》 4月24日 スーザにおいて、イギリス・フランス平和條約を調印。フランス國王、イギリスとの自由な通商を回復することを宣言。 「農民蜂起」
- 1629末—1630 1月 森林用役權の剝奪をめづつて、イングランド南西部における
- 1630—1640 ニュー・イングランドと西インド諸島へのイギリスからの移民増加。
- 1630 40ポンド以上の収入を有する土地所有者をすべてナイトにする古い法律の
》 プロヴィデンス會社の設立。 「更新」
》 星法院 (Court of Star Chamber)、長老派の作家アレクサンダ・レイトンに判決を下す(彼は終身禁錮、鞭うち、烙印、1萬ポンドの罰金を宣告された)。
》 5月 イギリスから穀類を輸出することを禁止する國王の布告を發布。
》 11月15日 イギリスとスペイン、マドリッドで、平和および同盟條約を締結。
- 1631 1月12日 フランスとイギリス、マドリッドで、ネーデルランド諸州聯合を兩國間に分割する祕密條約に調印。
》 3月—夏 イングランド南西部におけるあらたな農民蜂起。
- 1632—1634 ロシア國家とポーランドのモレンスク戦争。
- 1632 チャールズ一世、カナダをフランメに返還。
- 1632—1633 ケンブリッジシャおよびリンカンシャにおける農民蜂起。いわゆる「沼澤地方の人々」(fenmen)の蜂起——圍込および沼澤地排水に反對。
- 1633 ストラッフォード、アイルランド總督(太守)に任命される。
》 ウィリアム・ロード、カンタベリー大司教に任命される。

- 1633** ニュー・ヘヴン植民地の創設。
- 1633夏—1634** イングランド南西部における農民蜂起。 「を行う。」
- 1633 8 月** グロスタシャの織匠、晒毛工、紡績工ら 800 人、極度の窮状を訴える請願
- 1634 4 月** ロード大司教を長とする植民地問題に關する一般委員會を設立。
- 1635** チャールズ一世、船舶税 (Ship Money) を復活。
- ジョン・セルダンの書、『とぎされたる海』 (Mare Clausum)。
 - イギリス・オランダ「アサド商人會社」、東インドにおける貿易權をみとめた王の特許狀をえる。
 - マサチューセッツからの移住者、コネチカットに一連の植民地をつくる。
 - フランスとスペインの間に軍事行動はじまる。 「る。」
- 1636** マサチューセッツからの移住者、プロヴィダンス (ロード・アイランド) をつく
- 1636—1638** イースト・アングリアにおける民衆運動——農民の共同權をまもり、「排水者」に反對。
- 1637** 星法院、長老派の神學者プリン、バートン、およびバストウィックにたいする判決を下す (彼等は終身禁錮、鞭うち、烙印、および罰金を宣告された)。
- ジョン・ハンパデン、船舶税の徴收を不法であるとして、稅務裁判所 (Court of Exchequer) に公訴。
 - 7 月 23 日 スコットランドにおいて蜂起はじまる——スコットランドのチャールズ一世にたいする戦争に發展。
 - 10 月 蜂起、全スコットランドにひろがり、廣汎な國民的な性格をおびる。
 - 12 月 ジョン・リルバンの逮捕——デュリタンの寶物を印刷し、流布したことを告訴されて。 「蜂起。」
- 1638** 「沼澤地方の人々」、ケンブリジシャおよびリンカンシャにおいて、あらたに
- 1 月 6 日 ロング・ボーク (ノーサンブトンシャ) における船舶税反對の民衆の叛亂。
 - 3 月 國民盟約の調印とともに、スコットランドにおける戦争はじまる。
 - 4 月 18 日 ジョン・リルバンにたいする星法院の判決の執行——公衆の面前で鞭うち、梟架、500 ポンドの罰金、および禁錮の刑に處せられた。
 - 11 月 グラスゴウでスコットランドの長老派會議 (General Assembly) を召集。
——カルヴァン派の僧侶、貴族の代表、市民、および農民の一部が参加。
- 1639—1640** 「沼澤地方の人々」、あらたに蜂起。
- 1639 1 月** 政府を選擧することを定めたコネチカットの憲法の採擧。
- 1639** ニュー・ヘヴンの憲法の採擧。

- 1639** 2月 スコットランド軍、イングランド國境を越え、北部諸州へ侵入。
 》 6月 チャールズ一世とスコットランド人とのパーウィック平和條約。
- 1640** フランスとカタロニア、ロシアとサルジニアの同盟條約締結。
 》 ポルトガルの獨立の回復。
- 1640—1665** ポルトガル・スペイン戦争。 「牧場を奪還。」
- 1640** 春 イングランドの農民の間の暴動——農民、以前に地主のとりあげた共同
 》 3月9日 羊毛工業およびラシャ工業の不振に關して、政府の委員、議會で報、
 》 4月13日—5月5日 短期議會。 [告を行う。]
 》 5月6日 ロンドンにおける反政府民衆デモ。
 》 5月14日 ロンドンにおける民衆のあらたな叛亂。
 》 8月 スコットランド人、軍事行動を再開。
 》 8月28日 國王軍、ニュー・ベルンで敗北。
 》 11月 クロムウェル、ふたたび議會に選出される (ケンブリジ市から)。
 》 11月3日 長期議會の開會。
 》 11月7日—9日 議會の討論、ビムの計畫の採擇。
 》 11月11日 ストラッフォドの逮捕。 「逮捕。」
 》 12月 大司教ロード、ラドクリフ卿、およびその他の絶對主義政策の推進者の
 》 12月11日 「監督制度の木を根と枝もろとも (root and branch)」根絶するよう
 にとの請願——1500人が署名。
 》 年末 長期議會、宗教問題に關する委員會設置の決議を採擇。
- 1641—1643** イースト・アングリア諸州における農民の動亂 (リンカンシャ、ハンチ
 ンドンシャ、ノティンガムシャ、およびノーフォクシャ)。
- 1641—1644** イングランドのミッドランド地方(特にグロスタシャ)の農民闘争——森
 林の用役權を維持するため。
- 1641** ジョン・ミルトンのパンフレットと論文の發表、『イングランドにおける
 教會の戒律の改革について』(Of Reformation Touching Church Discipline in
 England), 『イングランドの監督制度について』(Of Prelatical Episcopacy
), その他。
 》 メアリ(チャールズ一世の王女)、オレンデ公ウィリアム二世と結婚。
 》 1月19日 議會を毎年一回召集する法案を議會に提出。
 》 2月15日 長期議會、「三年會期法」(Triennial Act)を採擇。
- 1641** 春—夏 地方における農民の暴動。
 》 3月22日—4月10日 上院におけるストラッフォドの裁判。

- 1641 4 月 リンカンシャの四教區からの請願——3000人の農民が署名し、農民の非常な窮迫をうたえる。
- ▶ 4 月10日 「公權喪失法案」を議會に提出 (Bill of Attainder).
 - ▶ 4 月21日 議會, 「公權喪失法案」を採擇.
 - ▶ 4 月24日 ロンドンの住民の2萬人の請願——國が衰微し、農民の秩序が一般にみだれていることをうたえる.
 - ▶ 5 月3日 國王の政府に反對するロンドンの人民大衆の叛亂. 議會へのデモ. ——民衆, ストラッフォドの死刑判決を要求.
 - ▶ 5 月3日 議會, 「新教, 國王個人をまもり, また議會の權力と特權およびイギリス國民の法律的權利と自由をまもる」抗議宣言を採擇.
 - ▶ 5 月5日 長期議會, ジョン・リルバンを牢獄から釋放することを決議.
 - ▶ 5 月5日(以後) ジョン・リルバン, 牢獄から釋放される.
 - ▶ 5 月7日 上院, 「公權喪失法案」を承認.
 - ▶ 5 月10日 チャールズ一世, ストラッフォドの死刑判決を承認.
 - ▶ 5 月10日 チャールズ一世, 議會の同意がなければ議會を解散することができないとする條例を承認.
 - ▶ 5 月12日 ストラッフォドの死刑.
 - ▶ 5 月末 「根と枝」法案(the root and branch bill)を下院に提出.
 - ▶ 6 月 對スコットランド戦争のために募集された國工の軍隊を解散.
 - ▶ 6 月24日 議會, 國王の「悪しき助言者」を追放し, 兩院の信頼する人々を指導的任務につけることを要求. 「止」.
 - ▶ 7 月 議會, 星法院と高等宗務官裁判所(the Court of High Commission)を廢.
 - ▶ 7 月19日 上院, 農民運動の彈壓を決議.
 - ▶ 8 月 議會, 森林法, 國王の先買權, および船舶税を廢止.
 - ▶ 8 月7日 チャールズ一世, 王有林の新しい境界の決定を否認する法案に署名.
 - ▶ 8 月10日(以後) 國家の最高權力, 事實上, 議會にうつる.
 - ▶ 9 月10日 長期議會休會中につき, 財政政策の指導などのため, 政府の全機關を監督する特別委員會(ピムを長とする)を設置. 「律令の採擇」.
 - ▶ 9 月21日 國王, 王妃, および皇太子の収入を, 國家のために差押える議會の
 - ▶ 10 月23日 アイルランドで, 國民的蜂起はじまる.
 - ▶ 11 月22日 議會, 「大奏諫」(Grand Remonstrance)を採擇.
 - ▶ 12 月1日 國王に「大奏諫」を提出.
 - ▶ 12 月14日 國王の意志に反して, 「大奏諫」を人民の間に印刷, 配布.

164112月 長期議會、アイルランドのカトリックを根絶することを決議。

➤ 12月25日—27日 ロンドンにおける民衆の反政府デモ。

1642—1643 「沼澤地方の人々」、あらたに暴動をおこす。

1642—1644 北米におけるイギリス植民者とアルゴンキン族インディアンとの二回
目の戦争。インディアン、さらに西方へ追いやられる。

1642 議會、「手形委員會」を組織。

➤ 1月3日—5日 チャールズ一世、下院の五議員——ピム、ハンプデン、ヘシル
リジ、ホルズ、ストロード、と上院議員——キンボルトン卿(マンチェスタ伯)
を逮捕しようと試み、失敗。

➤ 1月4日—5日 ロンドンにおける民衆の暴動。

➤ 1月10日 チャールズ一世、首都から北部へ出發——ヨークへ。

➤ 1月—8月 國王と議會の「紙上の論戦」(Paper War)。

➤ 1月18日 議會、國王が「防衛状態にある」ことを宣言。

➤ 1月29日 イギリスとポルトガル、通商條約を締結。

➤ 2月2日 議會の兩院、ロンドン塔および國內の他の要塞の指揮權を兩院が推
薦する人々にうつすことを要求する請願の原案を採擇。

➤ 2月16日 アイルランドの蜂起鎮壓のために政府の募集した100萬ポンドの公
債の擔保として、アイルランド人から250萬エーカーの適當な土地を沒收す
る長期議會の條例。

➤ 2月28日 チャールズ一世、要塞の司令官交代に關する議會の請願を承認する
ことを拒否。 「の叛亂。」

➤ 春 イースト・アングリアの蜂起に参加して、逮捕されたものを辯護する農民

➤ 3月5日 上院、民兵法案を採擇——この法案は、國王の否認にもかかわらず、
法律となつた。 「議會に通告。」

➤ 4月11日 國王、「叛亂」鎮壓のため、アイルランドへ出發するつもりであると、

➤ 4月23日 國王、ハルの彈藥庫を占領しようとして、失敗。

➤ 5月20日 議會の兩院、國王が内亂(Civil War)の原因であると決議。

➤ 6月2日 議會、「十九の提案」(Nineteen Propositions) (「6月2日の抗議」)

➤ 6月16日 軍隊募集に關する國王の命令。 「を採擇。」

➤ 6月17日 王黨派、ニュー・キャスルを奪取。

➤ 7月4日 議會、反革命陰謀とたたかうために、公安委員會を設置。

➤ 7月12日 議會、エセックス伯を指揮官として、議會軍を組織することを決議。

➤ 8月22日 國王、長期議會に宣戰——内亂はじまる。

1642 9月5日 下院、援王派(delinquent)を犠牲にして、内亂遂行の費用を支辨することを決議。 「ジの會戰。」

- 》 9月28日 國王軍と議會軍の最初の衝突。ウースタ附近のボーイック・ブリッ
- 》 10月—11月 國王軍のロンドン奪取計畫。
- 》 10月23日 エジヒル(南ウォリクシャ)附近で、議會軍と國王軍の大會戰。
- 》 11月12日 國王軍、プレントフォード市(ロンドンから7哩)を奪取。
- 》 11月13日 ターナム・グリーン(ロンドン附近)の戰鬪。國王軍、オクスフォードへ退却。

1643 ジョン・ミルトンのパンフレット、『離婚論』(The Doctrine and Discription of Divorce)の發表。 「教會議。」

- 》 ウェストミンスタ集會(Westminster Assembly)の召集(カルヴァニストの宗
- 》 議會、植民地問題に關する委員會を設置。

1643—1645 スウェーデン・デンマーク戰爭。

1643 1月14日 國王の手に歸したニュー・キャスル市とのあらゆる通商を禁止する長期議會の律令。

- 》 1月26日 監督制度を廢止する議會の條例。
- 》 2月1日 議會の國王にたいするオクスフォード提案(The Treaty of Oxford)。——(平和の先決條件：軍隊の解散、監督制度の廢止の承認、その他)。
- 》 3月 ヴァージニア、オランダにたいして、植民地の自由貿易を許可する條例を公布。
- 》 3月はじめ アンリエット・マリイ、フランスから軍隊、武器とともに、ヨーク附近のブリドリントンに上陸。
- 》 3月10日 下院、ニュー・イングランドに輸入されたすべてのイギリス商品の關稅を免除する法案を採擇。
- 》 3月27日 長期議會の兩院、寺院評議員會(chapter)、大司教(archbishops)、司教(bishops)、助祭(deacons)、および國王を支持するその他の僧侶および俗人の領地を差押える律令を布告。
- 》 春 「東部聯合」(Eastern association)の設置。
- 》 春—夏 南西イングランドにおける農民運動。
- 》 春—夏 ロンドンにおける國王のスパイの陰謀。
- 》 5月13日 グランタム(リンカンシャ)の會戰——議會軍の勝利。
- 》 5月16日 イギリスで、間接内國消費稅を實施；外國から輸入された商品にも、國內で生産された商品にも、この稅を課す。

- 1643** 5月17日 ドーシトシャ, サマセトシャ, ウィルトシャ(南西イングランド)における王黨派の蜂起鎮壓に関する長期議會の律令。
- 5月29日 「ニュー・イングランド植民地聯合聯邦」の創立。
- 夏一秋 イングランド東部において、クロムウェルのモデル・アーミイ創設され、軍隊の中核となる。
- 6月 チャリガラヴフィールド(オクスフォード附近)の會戦。ジョン・ハンプデン、傷をうけて死ぬ。
- 6月14日 議會、出版物の事前検閲を實施。
- 7月8日 上院、イングランドにおけるたえざる農民運動の鎮壓の條例を發布。
- 7月24日 下院、「後見裁判所」(Court of Wards and Liveries)を廢止する律令を準備するための委員會の任命を決議。
- 7月31日 ギョジバラ(リンカンシャ)の會戦——議會軍の勝利。
- 8月5日 王黨派の陰謀者の煽動によるロンドンのデモ——民兵軍により鎮壓される。
- 8月10日 マンチェスタ、「東部聯合」軍の總指揮官に任命され、クロムウェル——その副指揮官となる。
- 8月18日 僧俗の援王派の土地を沒收する議會の補足的律令。
- 9月 議會、「援王派に罰金を課するための委員會」を組織。
- 9月 アイルランドの「カトリック聯合總會」(General Assembly of the Confederate Catholics), アイルランドの英國からの完全な分離を布告。
- 9月 ネーデルランド諸州聯合の議會、イギリスへの使節を任命——イギリスの國王と議會の調停のため。
- 9月20日 議會軍と國王軍、ニュー・ベリー市(バークシャー州)附近で會戦。
- 9月25日 長期議會、スコットランドのピューリタンとの同盟條約に調印。「嚴肅なる聯合と盟約」(Solemn League and Covenant)。
- 10月11日 ウィンズビ(リンカンシャ)の會戦——王黨派の敗北。
- 10月12日 議會、「マーチャント・アドヴェンチャラズ組合」の権利を確認。
- 10月31日 植民地管理のための特別機關設置に関する長期議會の律令。
- 1644** ジョン・ミルトンの『教育論』(Tractate on Education)。
- 1月 リヂェン將軍指揮下のスコットランド軍、議會との同盟により、北部イングランドに入る。 「るもの。」
- 2月 「兩王國の委員會」の設置——戦争や國際關係のすべての問題を處理す。
- 2月22日 議會、「後見裁判所」を廢止する律令の審議をはじめ。

1644 3 月 「差押委員」(Sequestration Committees)の組織。

- 》 3 月 7 日 議會, 「レヴァント海において」商業に従事するイギリス商人の團體の權利を確認。
- 》 5 月 25 日 僧俗の授王派の土地の沒收に關する補足的律令。
- 》 7 月 2 日 マーストン・ムアの會戰——議會軍の決定的勝利。
- 》 9 月はじめ スキッポン少將指揮下の議會軍, ロストヴィジル灣(プリマス附)
- 》 10 月 27 日 ニュー・ベリーの會戰。 [近]で降服。

1644 11 月—1645 1 月 議會と王との平和交渉, 成立せず。

1644 11 月 10 日 クロムウェルとマンチェスターの衝突——國王にたいする闘争強化の問題につき(ドニントン・キャスル附近の軍事會議の會合において)。

- 》 11 月 15 日 議會軍, ニュー・ベリーを放棄し, リーディング(バークシャー州)に退却。 [エスタを非難。]
- 》 11 月 23 日 クロムウェル, 議會の會合に出席——議會軍の失敗につき, マンチ
- 》 11 月 23 日 チャールズ一世, オクスフォードに入る。
- 》 12 月 ジョン・ミルトンの『出版の自由』(Areopagitica)の發表。
- 》 12 月 9 日 クロムウェル, 軍隊の根本的改革について, 下院で演説。
- 》 12 月 19 日 「議員就官自禁法案」(1645 年 4 月はじめに法律となる——Self-denying Ordinance)。 [つものと決定。]
- 》 12 月 23 日 ウェストミンスター集會, 全イングランドが長老派の禮拜の義務をも

1645 ジョン・リルバンのパンフレット: 『友への手紙』(The Copy of a Letter . . . to a Friend)。

- 》 はじめ 『マンチェスター伯とオリヴァ・クロムウェルのあらしい』なるパンフ
- 》 はじめ 大司教ロードの死刑。 [レットの發行。]
- 》 2 月中頃 「ニュー・モデル」アーミーの組織に關する議會の條例。
- 》 夏 チャールズ一世, ロンドンにたいする新しい攻撃を準備。
- 》 夏—秋 イングランドの西部, 南西部, および南部の一部における蜂起(Clubmenの蜂起)。
- 》 6 月 5 日, 8 日および 10 日 ロンドン市長, ロンドン市會, および軍隊の高級將校の名による, 議會への請願——「議員就官自禁法案」の例外として, クロムウェルを軍隊にとどめることについて。
- 》 6 月 14 日 ネイズビーの會戰——議會軍の大勝。

1645, 7 月—1646, 7 月 フェアファックスおよびクロムウェルの指揮下に, イングランド西部へ進撃。

- 1645, 7月10日 王黨派, ロング・セトン峠で敗北.
- » 9月14日 クロムウェル, ブリストル市を占領.
 - » 10月10日 匿名のパンフレット: 『イングランドの天賦の権利・・・』 (England's Birthright justified against All Arbitrary Usurpation) の発行 (著者はジョン・リルバンと推定される).
 - » 10月14日 議會軍, ベィシング・ハウス要塞を占領.
 - » 11月 ニュー・イングランドの貿易, 間接内國消費税を全く免除される.
 - » 11月27日 ロシヤ大使ゲラシム・ドフトウーロフ, ロンドンに到着.
- 1646—1647 國內の旱魃と凶作. 「fiction」.
- 1646 ジョン・リルバンのパンフレット: 『正しい人の辨明』 (The Just Man's Justification).
- » リチャード・オーヴァトンのパンフレット: 『權利侵害に抗す』 (A Defiance against All Arbitrary Usurpation)
 - » 2月24日 「後見裁判所」を廢止する議會の律令——「軍役保有制」の廢止.
 - » 4月13日 議會軍, エクゼタ(デヴォンシャー州の首邑)を占領.
 - » 4月末 チャールズ一世, オクスフォードから北部に逃亡. スコットランド人, チャールズ一世をとらえる.
 - » 6月11日 上院, ジョン・リルバンにたいする判決を執行 (ロンドン塔への七年の禁錮, および罰金徴収の刑をうける). 「むかえられる」.
 - » 6月13日 ロシヤ大使ゲラシム・ドフトウーロフ, 議會の兩院において, 盛大に
 - » 6月23日 ゲラシム・ドフトウーロフ, ロンドンを去る.
 - » 6月24日 議會軍, オクスフォードを占領.
 - » 8月 リチャード・オーヴァトンの逮捕(1647年9月, 牢獄から釋放される).
 - » 10月9日 イングランドとウェールズにおいて大司教と司教を廢止する律令.
 - » 10月13日 國に借款を與えた人々を大司教と司教の土地によつて保證する律令.
 - » 11月17日 司教の土地を販賣する律令.
- 1647 ジョン・リルバンのパンフレット: 『ヨナのさけび』 (Jonah's Cry).
- » ジョン・リルバンのパンフレット: 『詐欺師をあばく』 (The Jugglers Discovered). 「Discovered」.
 - » ジョン・リルバンのパンフレット: 『王の壓制をあばく』 (Regall Tyrannie)
 - » 1月 イギリス商船で商品を輸送することを條件に, 大西洋彼岸の植民地との貿易を無税かつ自由にすることを決定した議會の條例.
 - » 2月1日 スコットランド人, チャールズを議會の全權にひきわたす.
 - » 2月8日 「示談委員會」(The Committee for Compounding) の構成と組織を決

定した長期議會の律令。

1647 2月19日 下院、議會の解散を決議。

- 》 3月15日 レヴェラズ、「人民の最高權力」と題する請願を下院に提出。
- 》 3月 王黨派の最後の據點の陥落——第一次内亂終る。
- 》 4月末-5月はじめ 「兵士のアジティタの會議」の設置。
- 》 4月28日 八つの聯隊、議會のアイルランドへの派遣命令を拒否した請願書を、
- 》 5月25日 下院、軍隊解散の期日を決定。 [提出。]
- 》 5月28日 上院、軍隊解散の決議を承認。
- 》 5月29日 軍隊解散命令にしたがわぬことを決議した14の聯隊のアジティタ、
エドマンズベリ(サフォーク州)で會合。 「とを決議。」
- 》 5月29日 軍隊の軍事會議、軍隊解散の議會命令にたいし、服従を拒否するこ
- 》 5月末 リチャード・オーヴァトンのパンフレット:『新しい謀略・・・』
(A New Found Stratagem・・・)。
- 》 6月頃 ロンドンの長老派、「公安委員會」を設置。
- 》 夏一秋 軍隊における廣汎な民主運動——ジョン・リルバンを長とするレヴェラズに指揮される。
- 》 6月2日-4日 旗手デョイスの部隊、ホウムビ城で國王をとらえる。國王——
軍隊の捕虜となる。
- 》 6月4日-5日 ニュー・マーケット附近のセントフォードヒースにおける軍隊
の集會——(rendez-vous)。全軍會議あるいは軍隊會議(General Council of the
Army)を創設する決議を採擇。 「名。」
- 》 6月5日 獨立派とレヴェラズ、「神聖なる義務」(Solemn Engagement)に署
- 》 6月14日 軍隊會議の「宣言」の採擇。
- 》 6月23日 軍隊、「新しい奏諫」を採擇。
- 》 7月16日 リーディングにおける軍隊會議の會合。レヴェラズと獨立派の對立
の激化——ロンドン進軍の問題をめぐる。
- 》 7月26日-27日 長老派の賛成者の出現。これにともなつて、下院、ロンドンの
民兵を長老派の手にうつすことを決議。
- 》 8月1日 獨立派、新憲法案を發表——「軍隊の提案・・・」(The Heads of
the Proposals offered by the Army・・・)。
- 》 8月はじめ 軍隊、ロンドンに進軍。
- 》 8月4日 レインズバロ大佐指揮下の部隊、ソート・ボークとその堡壘を占領。
- 》 8月6日 軍隊、ロンドンに入る。

- 1647 9 月 兵士にたいするリルバンのよびかけ：「兵卒にたいする私の助言」。クロムウェルの裏切を非難し、兵士が信頼できる新しいアジティタをえらぶようにうったえるもの。
- ♪ 9 月 28 日 軍隊内におけるレヴェラズの煽動を禁止する議會の律令。
 - ♪ 10 月 11 日 クロムウェルとチャールズ一世の交渉、決裂。
 - ♪ 10 月 15 日 レヴェラズの綱領の發表：「軍隊の問題・・・」(The Case of the Army truly stated・・・)。
 - ♪ 10 月 20 日 クロムウェルの議會における演説——「軍隊の問題」、および「叛亂せる聯隊」の著者を非難。
 - ♪ 10 月 28 日—11 月 11 日 パトニにおける軍隊會議の擴大會議。
 - ♪ 10 月末 レヴェラズ、「人民協定」なる名稱の民主的憲法案を提出 (The Agreement of the People for a firm and present Peace・・・)。
 - ♪ 11 月はじめ ジョン・リルバンのロンドン塔からの一時的釋放。
 - ♪ 11 月 11 日 チャールズ一世、ハンプトン・コートからワイト島に脱出。
 - ♪ 11 月 11 日 アジティタの宣言：「若干の聯隊の代表の書簡」をロンドンで配布。
 - ♪ 11 月 15 日 ハートフォードシャーの小都市ウェル附近の聯隊集會の時、レヴェラズの叛亂おこる。クロムウェル、叛亂を鎮壓。兵士、リチャード・アーノルドの處
 - ♪ 12 月 議會、王にたいする新しい提案を採擇(「四つの法案」)。[刑。]
 - ♪ 12 月 チャールズ一世、ワイト島で、スコットランド代表との協約に調印。
 - ♪ 年末 ジョン・ウィルドマンのパンフレット：『パトニの計畫・・・』(Putney Projects, or the old Serpentin in a New Form・・・)。
- 1648 1 月 3 日 議會。「四つの法案」の承認を國王に拒否される。
- ♪ 1 月はじめ 下院、國王とのすべての關係を廢絶することを決議 (The Vote of No Address)。
 - ♪ 1 月はじめ 「兩王國委員會」のかわりに、——「公安委員會」、いわゆる「ダービー・ハウス委員會」を設置 (Committee of Safety at Derby House)。
 - ♪ 1 月 17 日 ロンドンの集會：レヴェラズの下院にたいする新しい請願を確認。
 - ♪ 1 月 19 日 1 月 17 日の請願の問題に關し、リルバンとウィルドマンを議會に召還。
- レヴェラズの指導者の逮捕。リルバン、ロンドン塔へ、ウィルドマン、フリック牢獄へ禁錮される。 [「Tyrants」。]
- ♪ 1 月 28 日 ジョン・リルバンのパンフレット：「暴君に抗す」(A Defiance to
 - ♪ 2 月—8 月 第二次内亂。

- 1648 2 月 南ウエールズにおいて、第二次内亂の最初の火の手あがる。
- ♪ 2 月 27 日 ゼョン・リルバンのパンフレット：『現在の上院を非難する』(A Whip for a Present House of Lords・・・)。
 - ♪ 3 月 2 日 エディンバラで、新しいスコットランド議會の會合はじまる。「保安委員會」(Committee of Danger)の組織。
 - ♪ 4 月 9 日および10日 ロンドンにおける王黨派の暴動。
 - ♪ 4 月 26 日 スコットランド議會の長期議會にたいするよびかけ——最後通牒の性格をおびた要求をもつ使書とともに。
 - ♪ 4 月 29 日 軍隊の將校——獨立派とレヴェラズのもの——ウインザで協議。チャールズ一世を、人民の困窮の責任者として告訴する決議を採擇。
 - ♪ 4 月末 ノーリッチにおける王黨派の叛亂。
 - ♪ 5 月 3 日—10日 クロムウェル軍、ロンドンから西部ウエールズに進軍。
 - ♪ 5 月 9 日 フェアファックスの守備隊、長老派の市會の要求により、ロンドン。
 - ♪ 5 月 10 日頃 王黨派、カーディフの近くで敗北。 [から撤退。]
 - ♪ 5 月 21 日 ケントにおける王黨派の大蜂起——内亂の第二の火の手あがる。
 - ♪ 5 月末 海軍における王黨派の叛亂。
 - ♪ 5 月 31 日 王黨派にうばわれたテンピ要塞、議會に降伏。 [州)を占領。]
 - ♪ 6 月 1 日—2 日 フェアファックス指揮下の部隊、メイドストウン市(ケント)
 - ♪ 6 月 6 日 リーチの聯隊の一部、ドウヴァ市を占領。
 - ♪ 6 月 8 日 アイアトン指揮下の部隊、カンタベリ市を占領。
 - ♪ 6 月 12 日 王黨派、コルチェスタ市(エセックス州)を奪取。
 - ♪ 6 月 14 日—8 月 31 日 フェアファックス指揮下の部隊、コルチェスタを包圍。
 - ♪ 7 月 8 日 ハミルトン公指揮下のスコットランドの王黨派の軍隊、イングランドの北部諸州に侵入。 [軍に降伏。]
 - ♪ 7 月 11 日 王黨派にうばわれたビムブローク要塞、クロムウェル指揮下の議會
 - ♪ 7 月前半—8 月 11 日 クロムウェル軍、ウエールズからヨークシャへ、スコットランド人にむかつて進軍。
 - ♪ 8 月 2 日 ゼョン・リルバンの牢獄からの釋放。
 - ♪ 8 月 11 日 クロムウェル軍、ヨークシャにおいて、ラムバート軍に合流。
 - ♪ 8 月 13 日—16 日 クロムウェル軍、ヨークシャからプレストンに進軍。
 - ♪ 8 月 17 日—19 日 プレストンの會議——クロムウェル軍の勝利。スコットランドとイングランドの王黨派の撃破。
 - ♪ 8 月後半 スコットランドにおけるアーガイル派の擡頭。「ウィガモア」(Whi-

gamore) によるエディンバラの包圍。國務會議とモンローの逃走。新しい國務會議の議員を、アーガイルの賛成者のなかから選舉。

1648 8 月末　ワイト島で、議會と國王との交渉再開。

》　レヴェラズのパフレット：『血の計畫』。

》 9 月 11 日　「ロンドンおよびその近郊の善良なる市民」數千人の名においてつくられたレヴェラズの請願。

》 9 月 30 日　クロムウェル軍、パーウィックを占領。

》 10 月はじめ　クロムウェル、エディンバラに入る。

》 10 月 24 日　ウェストファリア平和條約。

》 10 月 29 日　レヴェラズのレインズバロ聯隊、ポンテフラクトの包圍において、

》 11 月 18 日　セント・オルバンズの軍事會議において、「軍隊の奏諫」を採擇。

》 11 月 20 日　「軍隊の奏諫」を下院に提出。

》 11 月 22 日　下院、あらたに、軍隊の解散をこころみる。

》 11 月 30 日　軍隊をロンドンに派遣することを決定した軍事會議の宣言の公布。

》 12 月はじめ　チャールズ一世、フレスト斷崖の城(ハンプシャー州)にうつされる。

》 12 月 2 日　軍隊、ロンドンに入る。

》 12 月 5 日　匿名パフレット：「バキングガム シャに輝く光・・・」(The Light shining in Buckinghamshire・・・)の發行。

》 12 月 6 日　議會の「プライドの肅清」(Pride's Purge)。

》 12 月 13 日　下院、國王との交渉再開の決議を廢棄。

》 12 月 15 日　レヴェラズ、「人民協定」の新しい版を發表。

》 12 月 16 日　チャールズ・ステュアートのロシア政府にたいするよびかけ——大量の穀物を送るよう懇請したもの。

》 12 月 23 日　チャールズ一世が國の災厄の主たる原因であると宣言する下院の決議。國王裁判準備委員會の任命。

》 12 月 28 日　ジョン・リルバンのパフレット：「共通の權利と自由の辯護」(A Plea of Common Right and Freedom・・・)。

1649 1 月 1 日　下院、國王を内亂の主たる責任者として指名すること、および國王の裁判のために「高等法院」(The High Court of Justice)を創設することを決議。

》 1 月 2 日　上院、「高等法院」創設に關する 1649 年 1 月 1 日の下院の決議を承認することを拒否。

》 1 月 4 日　下院、全權力を下院にうつすことを決定。

》 はじめ　チャールズ一世の密使、オーモンド伯、キルケニで、「カトリック聯合

總會」と、王黨派にたいする軍事援助條約に調印。

1649 1月—2月 王黨派の叛亂未遂。

》 1月5日 下院、「誹謗的にしてゆるしがたい」パンフレットに對して、きびしい處置をとることを決議。

》 1月6日 「高等法院設置法」。

》 1月9日 下院、新國體計畫を採擇。

》 1月15日 國王を裁判所にひきわたすことに賛成する市民の請願。

》 1月19日 出版の自由の制度を要求するレヴェラズの下院にたいする請願。

》 1月19日 チャールズ一世、裁判所へのひきわたしのため、ロンドンにうつさ
れる。}

》 1月20日—27日 チャールズ一世の裁判。

》 1月26日 チャールズ一世の死刑判決の確認。

》 1月26日 デュアラッド・ウィンスタンリのパンフレット『正義の新しいおきて』
(The New Law of Righteousness)の發表。

》 1月27日 チャールズ一世の死刑判決の布告。

》 1月30日 チャールズ一世の死刑。

》 1月30日 議會の同意なくして、なんびとかを王と宣示することは國家にたいするうらぎりでであると宣言する下院の條例。

》 2月 ミルトンのパンフレット：「王と役人の権力維持の條件」(The Tenure of Kings and Magistrates・・・)。

》 2月2日 軍隊の將校の會合。軍隊の中にあらそいをもちこむもの(すなわち、レヴェラズや、他の民主共和國の賛成者)を、死刑によつて威嚇する法律を發布するよう下院に提案する決議を採擇。

》 2月3日 最高の政治的裁判事件審議のために、ジョン・ブラドショウを長とする高等法院を設置。

》 2月5日 スコットランドで皇太子チャールズ・ステュアートを國王と宣示。

》 2月6日 上院廢止に關する下院の法案。

》 2月7日 王位廢止に關する下院の法案。

》 2月13日 國務會議の廢止。

》 2月22日 將校の會議、兵士が集會すること、および將校をのぞいて兵士だけで請願を提出することを禁止する決議を行う。

》 2月26日 ジョン・リルバンのパンフレット：『イングランドの新しい鎖をあ
ばく』(England's New Chain Discovered・・・)。

》 春 國內諸地方における飢饉と疾病。

- 1649春** イングランドにおける民主陣營の分裂はじまる。
- ▶ 3月 王黨派の最後の據點——ポンテフラクト要塞の陥落。
 - ▶ 3月 クロムウェル、(アイルランド征服に豫定された)遠征軍の總司令官およびアイルランド總督に任命される。 「ダに到着。」
 - ▶ 3月 スコットランドの密使、チャールズ・ステュアートと交渉のため、オラン
 - ▶ 3月1日 8人の兵士、將校の會議に請願——軍隊と政府の反動的な指導のやりかたに抗議したもの。
 - ▶ 3月6日 「高等法院」、5人の王黨派指導者にたいし死刑判決を下す(ハミルトン、ホランド、カペル、ゴリング、オウエン)。ハミルトン、ホランド、カペルの死刑。
 - ▶ 3月6日 1649年3月1日の請願の8人の著者、誹責され、軍隊から追放される。
 - ▶ 3月15日 ジョン・ミルトン、外國との通信實施のための共和國の「ラテン語の書記」に任命される。 「確認。」
 - ▶ 3月17日および19日 上院と王位を廢止する法案を、立法機關制定法として、
 - ▶ 3月21日 議會、國家機構の變化を宣言。
 - ▶ 3月21日 レヴェラズのパンフレット、「狐狩」。(The Hunting of the Foxes from Newmarket and Triploe-heaths to White-hall . . .)。
 - ▶ 3月24日 デョン・リルバンのパンフレット：『イングランドの新しい鎖をあばく』第二部。
 - ▶ 3月27日 議會、『イングランドの新しい鎖をあばく』の第二部が謀叛文書であることを宣言。
 - ▶ 3月28日 リルバン、ウォーウィーン、プリンス、およびオーヴァトン、そのロンドン塔への禁錮。
 - ▶ 3月28日—30日 レヴェラズの指導者逮捕にたいする抗議運動；3万人の市民の署名した請願を議會に提出：逮捕されたものの釋放を要求するもの。
 - ▶ 3月30日 「すでにバキングラムシャに輝く光について」なるパンフレットの發行。
 - ▶ 4月 「イングランドの貧しい壓迫された人民の宣言」の發表。(ウィンスタンリと他のディッガズによつて署名される——(A Declaration from the Poor Oppressed People of the England . . .)。
 - ▶ 4月 ロンドンの商人と金融業者、政府に借款をあてる。
 - ▶ 4月2日 レヴェラズの指導者の逮捕に抗議する新しい請願。
 - ▶ 4月7日 議會、ロンドン市からうけた借金を保證するために、特別課税を課す

・ことを決議。

- 1649 4月8日 デイッガズ、はじめて、セント・ジョージ・ヒル（サリー州のコブハム附近）の荒地の耕作をこころみる。
- ♪ 4月9日 差押えられた援王派の領地の示談金制と、領地の管理を改善する組織に關する條例。
- ♪ 4月11日 リルバン、プリンス、オーヴァトンのパンフレット：「國務會議の狀態・・・」(The Picture of the Council of State held forth to the free People of England・・・)。
- ♪ 4月14日 レヴェラズの宣言 (A Manifestation from Lieutenant Col. John Lilburne・・・)。(4月16日に發表)。
- ♪ 4月16日、18日、23—25日 リルバンと他の逮捕されたレヴェラズを辯護するロンドンの人民の請願とデモ。 [提出]
- ♪ 4月17日 ヒュースン聯隊における暴動——兵士のレヴェラズ、政治的要求を
- ♪ 4月19日 コブハム附近のデイッガズの開拓地、フエアファックスの命により、解散される。
- ♪ 4月20日 ウィンスタンリとエヴェラード、フエアファックスをホワイト・ホールにたずねて、デイッガズの目的に關して對談。
- ♪ 4月23日—25日 ウォリーの騎兵聯隊における兵士の暴動。
- ♪ 4月26日 デイッガズの宣言：『真正レヴェラズの旗・・・』(The True Levellers Standard Advanced・・・)
- ♪ 4月26日 ウォリーの聯隊の運動に参加した15人の兵士の裁判。
- ♪ 4月27日 兵士のレヴェラ、ロバート・ロキエルの死刑。
- ♪ 4月27日 ヒュースン聯隊における叛亂の參加者——兵士、俸給のしはらいをうけずに、軍隊を解職される。 [とデモ]
- ♪ 4月29日 ロバート・ロキエルの葬儀。政府のやりかたに反對する民衆の抗議
- ♪ 4月30日 助祭と、寺院評議員會の土地の販賣に關する議會の條例。
- ♪ 5月1日 「人民協定」の最後の改訂版の發行——リルバン、ウォーウィン、プリンスおよびオーヴァトンが署名。
- ♪ 5月2日 リルバンと他のレヴェラズの釋放、議會の解散。および新しい選舉の實施を要求するロンドン民衆のデモ。
- ♪ 5月2日 長期議會の外交代表ドリスロズ、ハーグで殺害される。
- ♪ 5月はじめ ウィルトシャとグロスタシャにおける兵士のレヴェラズの蜂起。
- ♪ 5月6日 オクスフォードシャに宿營した聯隊におけるレヴェラズの蜂起。
(次號に續く)